

平成 21 年 4 月 23 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520174

研究課題名（和文） 英語圏における「問答形式」の歴史的展開、および日本における英語教育への影響の研究

研究課題名（英文） A study of the history of the question-answer format in English speaking countries and the influence of the format over teaching of English in Japan

研究代表者

氏名：阿部公彦

東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授

研究者番号：30242077

研究分野：英文学

科研費の分科・細目：2902

キーワード：英文学、小説、西洋史、問答形式

1. 研究計画の概要

本研究は「問答形式」というやり取りの形式を「知」の形ととらえ、その歴史的変遷を追うとともに、この形式が日本の英語教育において果たした役割を研究することを目指すものである。

2. 研究の進捗状況

(1) これまでのところは礼節書や作法書などに注目するというアプローチを継続しているが、新しい試みとしてアメリカの料理入門書の研究にも着手した。このような研究の持つ意味としては、作法書などのマニュアル本がイギリスからアメリカへと移入される過程で、どのような変化が生じたかを検分するひとつの具体的な視点を提供するということがひとつ。加えて、19世紀から20世紀へと作法書がよりいっそう大衆文化の中に深く食い込んでいく中で、とくに料理本というジャンルが、強固な土台を築いていったその経過をも、こうした視点をとることで記述できると考えたわけである。

(2) 具体的な作家としては、そのパートナーであったアリス・トクラスが実際に料理本を出版したりもした小説家・詩人のガートルード・スタイン、「食」というものに貧しさの観点からフォーカスをあてるとともに、自身も胃潰瘍に苦しんだ経験を持ったバーナード・マラマッドらに注目した。

(3) 具体的な作業としては、ニューヨークのコロンビア大学で三ヶ月ほど

研究活動を行い、文献収集にあたるとともに、当地のニューヨーク市立図書館およびその分館にて映像も含めた資料を調査したことがあげられる。ニューオリンズの農園における実地調査でも、支配者層・被支配者層双方の「食」の形態について調査をすることができたとともに、文献の収集も行った。その成果の一部は、「英語青年」誌上にて現在連載中の「文章読本」でも扱っている。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している（ ）。これまでのところ、おもに英語文献にあらわれた「問答形式」の思想的意味をある程度、論文や研究発表という形で公にすることができた。

4. 今後の研究の推進方策

現在取りかかっている分野としては、「問答形式」が人間の身体感覚とどのようにかわりあっていくかというテーマがある。残りの研究期間では、このあたりの問題について考察する予定である。とくに注目したいのは「胃」と「食」をめぐる身体感覚である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 3 件)

阿部公彦「カズオ・イシグロの長電話」
（「水声通信」9・10月合併号、2008）
70 - 75

Masahiko ABE, 'Reticence against the Plot: the Meaning of "Is" in Wallace Stevens's "Thirteen Ways of Looking at a Blackbird"', *Poetica* (spring 2008), 93-112

阿部公彦「出だし レイモンド・カー
ヴァー「大聖堂」」「英語青年」2008年4
月号、37 - 41

〔学会発表〕(計1件)

阿部公彦「「血」の血統 高村光太郎の
駝鳥」(日本英文学会全国大会シンポジウム
「ホイットマンの親戚」、2008年5月2
5日 於広島大学)

〔図書〕(計1件)

阿部公彦『スローモーション考 残像に
秘められた文化』(南雲堂、2008) 29
6頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕